

北海道・東北



p.6

岩手県

佐藤祐一さん

スポーツ
ウエルネス吹矢



p.7

岩手県

菅原達郎さん

サッカー



p.8

秋田県

水谷仁光さん

グラウンド・ゴルフ



p.9

山形県

公平 仁さん

サッカー





スポーツウエルネス吹矢 「岩手Aチーム」(選手)

さとう ゆう いち
佐藤 祐一さん 66歳
● 参加歴：1 回目

ねんりんピックの感動を多くの人に伝えたい

ねんりんピックにあこがれを持っていたので、今回出場できたことはとてもうれしいできごとでした。吹矢を始めて10年以上になりますが、スポーツウエルネス吹矢がねんりんピックの種目に加わったことで参加することができました。

まずは、松山市の陸上競技場で行われた、まるで国体のような開会式の素晴らしさに感動しました。60歳を過ぎてもこのような体験ができるなんて、とても素晴らしいことだなと思いました。

スポーツウエルネス吹矢の競技会場は砥部町で、地元小学生の手作り応援メッセージ入り紙製メダルが各選手に配られました。私のメダルには、「自分の力が出せるようにがんばってください」と書いてありました。この紙製メダルをお守りとして首から下げ、試合に臨みました。

競技は、3人1組の団体戦、6ラウンドの3人の合計得点で競います。試合直前になると、すごく緊張してきました。その時、応援メッセージの言葉を思い出し、「そうだ、いつもの実力を出せばそれでいいんだ」と思い、すごく落ち着くことができました。

午前中の3ラウンドが終わった時点で、我が「岩手Aチーム」は6位でした。このまま後半戦も頑張れば6位に入賞できると思うと、一気にワクワクドキドキ感が増してきました。

午後の残り3ラウンドが終わり、いよいよ結果発表。結果は6位入賞。やったー！こんな大きな大会で入賞できるなんて！これも、あの小学生の手作り応援メッセージのお陰だと思いながら、賞状とメダルをいただきました。

大会の様子は、グループラインで地元岩手の花巻ふくろう支部の仲間にも伝えることができ、喜びを分かち合いました。

また、競技会場には蛇口から出るミカンジュースのサービスや地元特産のミカンの出店があり、極早生のミカンを目見してみたらとても美味しく、小粒の中でもさらに美味しい極小粒のものだけを送ってもらいました。岩手ではなかなか手に入らない愛媛ならではのミカンで、職場や吹矢仲間とともに美味しく食べることができました。

初めてねんりんピックに参加しましたが、全国の仲間との交流や開催県の地元の方々のおも

てなしの心に触れたり、ワクワクドキドキ感を味わったり、この大会でたくさんの感動を体験しました。この感動を仲間に伝え、多くの人にねんりんピックに参加してもらえれば良いなと思いました。



表彰式後、入賞の喜びをチームでかみしめた。(左端)



競技会場に設置されたミカンジュースを堪能。



サッカー 「水沢六十雀」(選手)

すが わら たつ ろう
菅原達郎さん 67歳
● 参加歴：1 回目

わくわくドキドキ感いっぱいのねんりんピック

私たちのサッカークラブは、40歳という“適齢期”になると参加できるシニアクラブです。シニアサッカーの場合、10歳単位の区分で全国大会が開催されており、私たちのクラブで現在活動している最高齢の人は77歳で、県の代表としても頑張っています。

さて、今回シニアトップカテゴリーのひとつ「ねんりんピックえひめ大会」に、長年一緒にボールを蹴ってきた私たちが、平均年齢70歳に近いにもかかわらず参加できたことは、本当にうれしく楽しいものでした。また、全国の仲間と対戦することができ、いつもの県内外の60歳リーグ等とは違って、メダルにこだわった「わくわく感」や「ドキドキ感」もいっぱいの大会でもありました。

ゲームでは残念ながら、膝の故障や肉離れなど選手の故障も多く出てしまい、チームとしては満身創痍の状態となって1分2敗の結果に。でも、各試合のゲームプランを共有しながらのプレーは、いつもの私たちのサッカーだったか

なと思っています。

今回の大会では、この他にもじゃこ天を頬張っていたボランティア参加の女子高生と意気投合して記念写真に入ってもらったり、宿泊先では東北出身で愛媛に嫁がれたという方と出会い、「久しぶりに東北弁を聞いた～」と言われたときには、むしろこちらの方がうれしくなっていました。また、多くの人から「奥州市ってどこ？」と聞かれたのですが、今までは「世界遺産の平泉の隣り」と説明していましたが、今回は「エンジェルス（当時）の大谷翔平選手の出身地で、彼の実家は我々のすぐそば」と説明しました。偉大な選手にあやかって、相手の方々ともすぐフレンドリーになりました。

ところで、今回の日程は3泊の予定でしたが、閉会式の後に私たちはレンタカー（マイクロバス）を借りて高知県に向かいました。四国地方はそう頻繁に来ることができないので、数日観光地を巡り、しまなみ海道をドライブして、帰路は広島空港でした。「休肝日」は一日もあり

ませんでした。仲間と一緒に、本当によい思い出を作ることができました。主催者並びに関係者のみなさんには深く感謝申し上げます。機会があれば、またいつかどこかでお目にかかりたいものと思っています。ありがとうございました。



満身創痍で見事に戦い抜いたチームのメンバーたち。(前列の左端)



グラウンド・ゴルフ 「秋田県」(選手)

みず たに じん こう
水谷 仁光さん 72歳
● 参加歴：2 回目

よりそい・おもてなしに感謝、同行プレーヤーに感謝

今大会で愛媛県の皆さんの心からの「よりそい・おもてなし」を感じたことがありましたので紹介します。

一つめは、宿泊したホテルから事前に「天気情報」を自発的に知らせていただいたこと。南国とはいえ「朝夕は冷え込みが強く雨も予想されるため、上着・雨具の持参を」との情報をいただきました。本当に助かったことは言うまでもありません。

二つめは、久万高原町の担当者の方の心配りです。大会終了後の松山市内への移動は、当初路線バスでの移動予定でした。秋田からの出発前に突然、久万高原町の担当者の方から「松山市内へ送迎バスが運行されますが、そのバスに6名の空席がありますので乗車しませんか」という連絡をいただきました。予想もしていなかった連絡に感謝し、二つ返事でお願しました。

私たちには情報・連絡がなくとも大会は大成功したと思いますが、全国から参加する選手の気持ちになってさりげなく「お声がけをする・情

報を知らせる・お誘いをする」ということは、お金のかからない心のこもった「よりそい・おもてなし」だと思いました。

肝心の大会は、自分が優勝する奇跡が起こることを知らずにプレー。初日は、8ホール×2の16ホール、トータル38打で終了。成績表が配布され、自分は56位だとわかりました。1位とは6打差もありました。とても追い付けるスコアではありませんでした。2日目は10打であがり、総トータル48打で今大会を終了しました。成績発表のアナウンスがあり、一番最初にコールされても、仲間からは下位からのコールで10位入賞ではないかと話をしていましたが、総合成績表が配布され優勝と分かった瞬間、「奇跡が起こった。間違いではない」と何回も成績表を確認しました。びっくりして飛び上がったほどでした。

今回ほど恵まれたメンバーで和気あいあいと対話しながら相手を褒めあって、スコアを意識せずゆっくりのんびりした気持ちでプレーしたことは初めてのような気がします。同行プレーヤーに感謝します。ありがとうございました。

愛媛県の皆さん、大会関係者の皆さん、大変お世話になりありがとうございました。



気のおけない仲間たちと。(中央)



天気に恵まれのびのびとプレー。(右から2番目)



サッカー

「山形モセスサッカークラブ」
(選手)

きみ ひら ひとし

公平 仁さん 67歳

● 参加歴：1 回目

心がほっこり温まる愛媛のみなさんとの交流

サッカーの知名度はなく顧問もない中学で始めたスポーツですが、下手でも新しい物好きの性格のおかげで続けてこれることができました。

社会人になると、職場チームで各種大会に参加。定年退職後には、友人の誘いで今の山形モセスチームへ加入、今回のねんりんピックえひめ大会にも参加することができ、とても感謝しています。

試合前日の総合開会式では山形県のプラカード担当の生徒がコロナに感染、代役は、野球部マネージャーの野球女子でした。話題は、やはり WBC。山形県出身である中野拓夢選手、WBSC U-18 の武田陸玖選手の活躍に会話が盛り上がりました。雰囲気良く会話が弾んだところで愛媛みかんの話題になり、冬に食べるみかんでとてもジューシー、こたつでは食べられない(?)ものがあることを、行進担当の県職員の方からも教えて

もらいました。名前は「紅まどんな」。私は、初めて知りました。これは是非食べてみたいと思い、さっそくスーパーで買い求めました。食べ方も普通のみかんとは違い、皮をむかず横に切り、スイカのように食べる。なるほど、これはとても濃厚で風味絶佳！オイシクッ！今回参加したことで知った心に残る南国の果物でした。

このような何気ない会話の中で得た情報は、心が温まるものです。ねんりんピックえひめ大会の関係者のみなさんにはとても感謝しています。本当にありがとうございました。



競技会場へ向かう前、道後温泉で人気の撮影スポットで一枚。



初めてのねんりんピック出場は忘れられない思い出に。



2日目の試合前に、チームメンバーと同伴者全員で記念撮影。(前列右端)